かご・アイデアの器：バスケタリー

■■復元ノートNo.１■■

・・・

というのも、使っている間に折れるだろうし、ということで右下図のような方法を考えてみた。他にもいろいろと考えられるだろう。民具ではタテ材を折って次のタテ材で巻く方法がある。図の方法では、重なったタテ材の厚みが出たが、遺物からはその痕跡はない。

■トライアル：
ヒノキ科であれば、ということでスギ内樹皮で編んでみた。
オリジナルよりは小さなサイズだ。
スギ内樹皮でも編めるが、青森ヒバの方がまだ柔らかい。
スギの方は折れてしまうと、完全に曲がるのでカクカクした線になる。
他にもヤナギの内樹皮で編んでみた、こちらの方が柔らかい。
スギ内樹皮ならきれいに編めるだろう。

■感じたこと：
この小さなかご（ポシェット）は腰に付けて何かを入れたものなんだろうか。民具ならば腰につけるために形を丸くしている。真四角というのはどういうことなのか、また柔らかくはないので持ち歩くといっても、、、難しい。拾ったものを入れるのか、嗜好物か、種か、皆さんなら何をいれますか。

備考：このページの文章、写真の転用についてはご連絡をお願いします。
「かご・アイデアの器：バスケタリー」では皆様からのお便りをお待ちしています。サイト制作：Takamiya Noriko